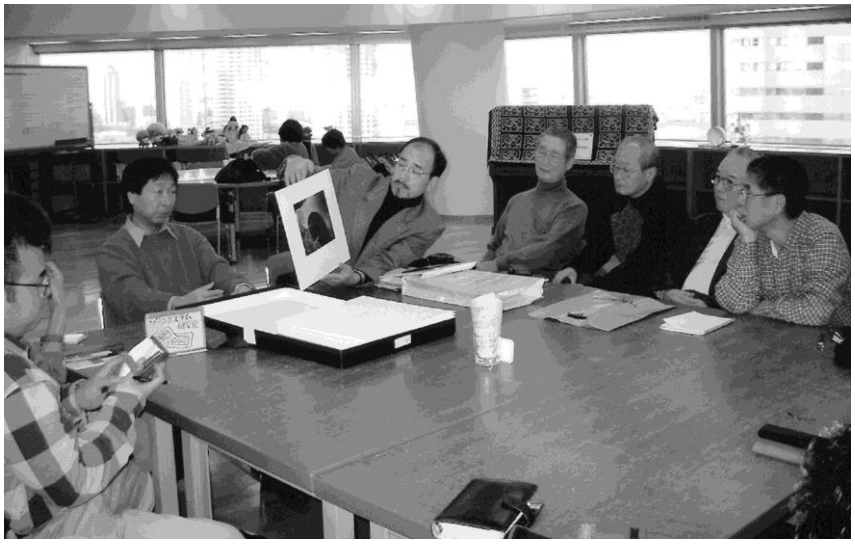
Photographic Society of
Zone System

ゾーン・システム研究会会報
発行日：2003.2
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

NO.24

CONTENTS

・ ポラロイドType55を使ってみて
・ 文化トラストとしての写真行為
・ ｿﾞｰﾝｼｽﾃﾑ研究会第7回写真展「光への探求」全作品
・ ｿﾞｰﾝｼｽﾃﾑ研究会第7回写真展スナップ
・ 倉持悟郎氏（G.I.P.）談
・ ｿﾞｰﾝｼｽﾃﾑ研究会定例会日誌
・ 2003年ｿﾞｰﾝｼｽﾃﾑ研究会総会議事録
・ インフォメーション



ポラロイド Type55 を使ってみて

中島 秀雄

ポラロイドはテスト撮影に使うものと以前は思っていた。事実、アシスタントの時代にテスト撮影として何度も失敗しながら使っていた。今でも、私はクライアントの要求からタイプ５４を使っている。

Type55 のすばらしさを知ったのは、アダムスのオリジナルプリントや写真集を見てからだ。アリゾナの白い教会を撮った写真は視覚の発見とも言われ、複雑な教会建築を見事に一枚の写真に捉えている。また、カリフォルニアの海に流れ込む水の輝きを撮った作品は、平板になりがちな海を逆光線で捉えることで、壮大な海のドラマを感じさせる。そして、今でも忘れることの出来ない写真にカスケード（小滝）の写真がある。30 秒の長い露出時間で撮られた水の流れは、肉眼では捉えられない豊かな自然の美しさを見せてくれる。この写真は以前、アダムスの写真集に付録として付いていたことがあった。西武美術館の入り口にある本屋、アールヴィバンのショウケースの中に、写真集とオリジナルプリントが並んでいたのを今でも覚えている。確か 3 万円位だと記憶している。これらの写真のすべては Type55 で撮影され、そのネガからプリントされた代表作品だ。ポラロイドはテスト撮影に使うもの、という考えを変える大きなきっかけにもなった。全紙のプリントを見ても、ポラで撮影したとは思えないシャープなイメージと豊かなプリントヴァリューで見る者に迫ってくる。また、私の師である細江英公はかつて、京都の寺の石畳を Type55 で撮影し発表したことがある。ゾーンシステムなど知らない当時の我々は、何度も失敗しながら撮影していた。

そして、アダムスの一連の技術書に“ポラロイド写真”がある。この中のポラロイドによるゾーンシステムのページは見逃せない。また、様々な種類のポラロイドで撮影された“Singular Images”というタイトルの作品集もあり、これらを見ているとポラロイドによる写真表現の可能性が強く沸きあがってくる。

タイプ５５の特徴

タイプ５５のすばらしさは、何と言っても簡単にネガを作れることだ。

プリンティングにこだわる我々は、適正ネガ作りのため現像、停止、定着、水洗、乾燥といった長い処理プロセスに集中する。途中少しでも集中力を欠けば、満足な結果は得られない。タイプ５５はこの長いプロセスのかなりの部分を省略し、暗室やトレイの準備、攪拌、停止液、定着液は必要ない。その時の気温と時間、そして、亜硫酸ナトリゥム処理液と簡単な水洗だけですばらしいネガが作れる。

永久保存のできる高解像力ネガ

タイプ５５の解像力は資料によると、160－180 本／mm（1mm の中に 160-180 本の線を識別できる）となっている。プラスＸは 125 本／mm、トライＸは 100 本／mm となっていることから、タイプ 55 がいかに解像力が高いか分かる。そして、粒子やディテールを損なうことなく２５倍までのプリントに耐えることが出来るとなっている。フィルム自体は経験豊富なコダック製で、この意味でも安心感はある。

現像プロセス

露光されたフィルムには潜像が形成され、引き出すとき２本のローラによって現像拡散液がフ

ィルムと印画紙の間に均一に流れ出し、現像と拡散が進行する。明るい部分は現像液によって黒化銀としてフィルムに固定され、暗い部分は現像されないので銀乳剤は拡散液によってペーパーに移行し、白いペーパーにあらかじめ付いている現像核によって捉えられ、黒化銀となってポジ画像を形成する。凹版画をかんがえるとよく分かる。インクを詰めた版の上に湿り気のある紙をのせ、上からプレスすることでインクを紙に転写し画像を定着する。凹版がネガで、紙にポジ画像が現れる。

現像の終わったネガの表面には現像溶剤がたっぷり残り、すばやく亜硫酸ナトリュウム溶液に入れて取り除く。必要なら指で優しくこし取るとよい。重ねたり、ほって置くだけではだめで絶えず攪拌するのがよい。

通常フィルム現像に要する我々の労力は大変なものだ。ポラロイドフィルムを使うことで、この労力は撮影、プリントに振り向けることが出来ると考えられる。

問題点は何か

公称感度はISO５０になっていて、この感度で撮影するとプリントに関してはほぼ満足な上がりになる。しかし、ネガを見るとシャドーはスヌケ状態で、ハイライトの黒化銀だけが際立って見える。これはプリントバリューとネガのラチチュードに差があり、広いネガのラチチュードのハイライトをプリント再現に合わせて露光することからネガのシャドーが犠牲になり、スヌケ状態になってしまう。この状態のネガからは豊かなプリントバリューは期待できない。ネガのテクスチャーレンジは１：１２５であり、プリントのテクスチャーレンジは１：２５であることからもわかる。逆に、ネガを重視してシャドー露光するとプリントは露光オーバーになってしまい、美しいプリントはできない。これらはポラロイドの欠点しとて捉えるよりも写真の物理、化学現象の結果だと考える方が合理的だ。また、有効画面が多少小さくなり、あらかじめピントグラスに書き込んでおかないとトリミングに問題が生じる。これらをポラロイドの欠点として捉えている人は、いつまでも先に進めない。

Type55 とゾーンシステム

プリントの感度を見つける（プリント重視）

プリントの感度はゾーンＶ（１８％グレー）を求めるテスト撮影で見つける。私はいつもフォカシングクロスの白い内側にカメラを向け、ゾーンＶで撮影するようにしている。まず、カメラを無限の位置にする。露出計に ISO100 とセットし、ゾンＶの値を見つけ、フィルムを装填してポラの袋をすべて引き上げ一回露光する。袋を半分下げてもう一度同じ値で露光する。次に、ポラの袋をすべて戻し、フォルダーをカメラからはずし、ポラを正確に引き抜いてその場で現像する。時間が来たら引き剥がし、プリントバリューを確認する。フィルムには一回露光した部分と、二回露光した部分になり､結果として ISO100 と ISO50 で撮影したことになる。プリントを見てどちらがゾーンＶになっているかを見る。

一回目の露光の部分がゾーンＶになっていれば、感度は１００ということになり、二回露光の部分がゾーンＶになっていれば感度は５０となる。一回露光と二回露光の中間がゾーンＶになると予想することもあり、その場合はISO７５として使うこともある。気温が低い場合はジャケットの内側にしまい１～２分現像するときもある。夏の場合は感度が少し高めになると予想してISO１２５にして同じように一回露光と二回露光し、

ISO125 と ISO64 を求めることもある。プリントのテクスチャーレンジは１：２５になっていることから、プリントバリューは ZoneIII から ZoneVII と 1／2 くらいで、ZoneVIII の白は飛ぶと考えた方がよい。ポラロイドもゾーンシステムを理解していれば簡単に進められる。しかし、現像時間や現像温度はほぼ決められていて、その条件を我々が現場で作り出すことがポイントになる。

ネガの感度を見つける（ネガ重視）

ネガの感度は通常のフィルムと同じように、正しいゾーンⅠを見つけることになる。

新鮮な指定の亜硫酸ナトリウム溶液を準備する。グレーカードを均一に照明し、感度を変えて撮影し、すべての撮影が終わってからポラロイドフォルダーに再装填し現像に移る。

ISO	６４	1／30	f 11	1／3
	５０		11	
	４０		8	2／3
	３２		8	1／3
	２５		8	

撮影の終わったフィルムの現像は一定の室温の中で進めるのがポイントだ。一定の室温の中で作業することが安定したネガ作りには有利で、ここは通常のフィルムとなんら変わるところはない。しかし、ポラロイドの方が温度設定の許容範囲は広いと考えてもいいようだ。フォルダーに撮影済みのフィルムを戻し、テーブルの上に置いてフォルダーを押さえ平行に引き抜く。引き抜くスピードは、早すぎても遅すぎてもムラになりやすく注意が必要だ。また、途中で止めないことが大切で、止めると現像ムラになってしまう。このとき、未撮影のフィルムも現像し、スヌケのネガを作る。私は、現像時間はいつも３０秒にしている。指定の 20 秒は数値的に中途半端でだめなのだ。原理的にいって現像時間は２０秒以上過ぎれば長くてもあまり意味はない。（変化する場合もある）。それよりも短い現像時間の方が問題で、２０秒は最低必要になる。

すばやく引き剥がし、溶液に入れ、連続に動かすことが大事で、場合によっては現像溶剤が取れにくく、指でこするときもある。しかし、溶剤が完全にとれない場合もあり、これはポラの乳剤によるものらしく、ポラの弱点と言えるかもしれない。しかし、溶剤が完全に取れなくてもプリントしたときまったく影響がない場合もあり、研究も必要だ。

洗浄が済んだネガは常温の水で水洗に移る。２０分ほどの水洗時間で完了し、ドライウェル溶液に入れた後自然乾燥する。

アーカイバルを考慮する人は以下の方法がある。

洗浄の済んだネガを軽く水洗して、酸性硬膜定着液で３－４分定着し、その後リンスして水洗促進液に入れ、促進液指定の水洗時間で水洗する。その後、自然乾燥する。

アダムスはセレニウムトナーに入れて調色するといっている。

濃度測定

スヌケのネガを測定し、その値より 0.1 をプラスした値のネガを見つける。

スヌケ濃度が 0.1 であれば 0.2 の濃度を持つネガの感度があなたの感度数値になる。

ISO３２で撮影したネガ濃度が 0.2 近辺にあれば、あなたの感度はＩＳＯ３２ということになる。現像時間は決まっているので、これで終わりだ。

新しい感度をメーターにセットし、様々な光りの中で撮影しフィルムの特性をつかんでいくことが大切です。

使ってみて

遮光紙にフィルム装填してある構造で、取り扱いは慎重に進めるべきだ。カットフォルダーの安全性と利便性の歴史は長く、以来それに変わるものは生まれていないことから、ポラの方式は画期的な方式だと言える。

私は、ポラの箱を開けるとすぐにポラの金具の部分を頭に揃え、箱に入れ直す。こうすると、引き出すときの失敗は少なくなる。ただし、一枚取り出すとき、金具の部分をもって引っ張るとフィルムだけ引き出され失敗する。順番に上から一枚づつ、金具から少し下の袋を強く持って引き出す。装填にはカチッという音を必ず確認し、ゆっくりと袋を引き出す。ゆっくり引き出す理由は、フィルムが傾かないようにするためと、平面性にも気をつけるためだ。引き出された袋は風があるとゆれる。袋の先端を指で触れることで揺れは収まる。指で強く押さえたりすると揺れの原因になるので注意が必要だ。

被写体のハイライトが最初に眼に飛び込んでくることから、明るい部分をまずメーターで確認する。次に、重要なシャドーを確認し、シャドーを位置付けることを優先し、ハイライトがゾーンVIIIを超えてもそのまま撮影する。今までの経験から、明るい被写体にたいしては、大変濃いネガになる（マイナス現像不可）。濃いネガということは光域が広いということで、その分プリントヴァリューは豊かになるといえる。濃いネガも、１番とか０番を使ってプリントすることでうまくいく。今までのやり方ではプリント出来ないといってあきらめる人もいるが、これは新しいことにチャレンジするときに起きるいつもの問題で、これを乗り越えてこそ力になる。

しかし、ネガの周辺には分からないムラやキズが残り困るときもあるが、特性をよくつかみ慣れることが一番大事なことだと思っている。

フィルム現像は出来るだけ自宅に戻って処理することを奨める。部屋を 20 度Ｃ前後まで暖め、撮影済みのポラを取り出して、溶剤が指定の温度になるまで１~２時間そのままにしておく。その間、冬であれば亜硫酸ナトリュウム溶液も２０度Ｃ前後まで温めておく。

ネガはすばやくプリントからはがし、ミシン目にそって切り離し、処理液に入れて揺り動かす。現像剤がフィルムから剥がれ、ヌルヌルが取れたことを確認した後、私は専用のバケツに１時間ほど入れて置く。その後、水洗に移る。水洗は一枚一枚隔離できる水洗器の使用を奨める。とにかく傷つきやすく慎重に進めることがコツだといえる。

アメリカにはポラロイドしか使わない写真家もいると聞いたことがある。薬品に対してアレルギーの人、普段忙しくて時間を節約したい人、また、ポラロイドの特性を表現に生かしていこうと考えている人も多くいる。確かにコスト面でハンディがあるが、各溶液のストックや温度調整、時間の節約、その他を考えるとどちらが経済的か分からない。

少し努力することで、すばらしいネガが作れることは確実だ。

文化トラストとしての写真行為

平木　収（写真評論）

「写真」ということばの意味を再考すると、モノとして写真の印画を指す場合や、カメラで撮影されたイメージのことを指す場合、そしてそれらをすべて含めて指すときなど、どこか漠然としている。

しかし、そのなかでもモノとしての写真、つまり写真印画は近年、その意味合いが変化してきたように思われる。

デジタル技術の波が銀塩写真を呑み込もうとしている今日、写真印画、とりわけ丹念に仕上げられたモノクロームのゼラチン・シルバー・プリントたちは、以前にも増して麗しい輝きを、その内部から放っているように感じられる。

というのは、印刷物やデジタル出力で写真イメージを見ることが当たり前のようになってきた現在、銀塩画像の質的な特質が際立って我々の目に映るようになったからだろう。

この傾向に気づいたとき、ああ、写真の世界は変わりゆく運命にあるのだな、と思いながらも、久しく継承されてきた写真文化を放棄するわけにはゆかないという気持ちが、強く持ち上がる。

銀塩写真の特質を文化として維持しなければ・・・と。

E・ウエストンも A・アダムスも見る目を持ったひとが、この世にいなくなったらどうしょうと・・・。

ゾーンシステム研究会の面々の努力は、写真文化をモノの形で実現する、ある種のトラスト活動でもあると思う。

写真映像における画質という価値観を継承し守ろうと志しているからである。

そこには個人の趣味といった次元を越えた、社会的な意味があり、映像化社会の多様性を、その原点の「写真」の物質感で支える意義があるといえよう。

注）上記文章は、２００２年ゾーンシステム研究会写真展にて平木先生よりいただいたものです。

ｿﾞｰﾝｼｽﾃﾑ研究会第７回写真展［光への探求］全作品（1/3）

Show case, Bodie
中島　秀雄

Rain drops
中島　秀雄

Stumps
荒井　崇

Mariposa, CA
田中　英司

Bodie, CA
田中　英司

Tioga Pass, Sierra Nevada
田中　英司

Bridgeport, CA
古川　翔士

Bodie, CA
古川　翔士

White birch
木下　威

Bridgeport, CA
山下　誠一

Bodie, CA Ⅰ
山下　誠一

Bodie, CA Ⅱ
山下　誠一

ｿﾞｰﾝｼｽﾃﾑ研究会第７回写真展［光への探求］全作品 (2/3)

Hollokö, Hungary Ⅰ
山本　昭二

Hollokö, Hungary Ⅱ
山本　昭二

Willow
畑　文夫

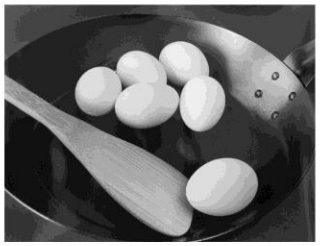
Prayer
岡崎　克之

Form, Aomori
岡崎　克之

Frost
畑　文夫

Woods
小野　望

Trumpet
小野　望



Eggs
石井　政吉

Pantheon
田中　肇

Taormina Ⅰ
田中　肇

Taormina Ⅱ
田中　肇

ｿﾞｰﾝｼｽﾃﾑ研究会第７回写真展［光への探求］全作品（3/3）

Kitchen
松本　ひさ子

Shells
松本　ひさ子

Plant
古谷津　純一

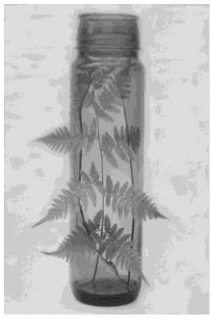
Bright in my heart
内田　順

Afternoon bright
内田　順

House, Meiji era
古谷津　純一

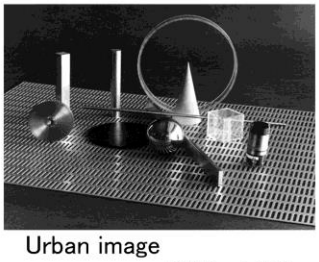
Front yard
鈴木　武志

Half Dome, Yosemite
鈴木　武志

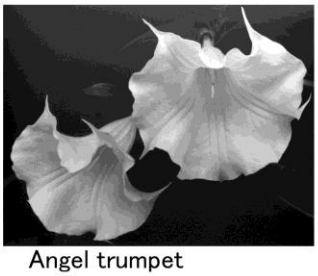


Broken glass
藤枝　義弘

Chinese cabbage
菅野　慶孝



Urban image
菅野　慶孝



Angel trumpet
藤枝　義弘

ｿﾞｰﾝｼｽﾃﾑ研究会第７回写真展ｽﾅｯﾌﾟ

（2002.11）

倉持悟郎氏(G.I.P.)談

畑文夫

以下のメモは、ｿﾞｰﾝｼｽﾃﾑ研究会第７回写真展を訪問してくれたG.I.P.倉持悟郎氏の談話を、畑さんに記録してもらったものです。

G.I.P.の倉持悟郎氏は、数多くの海外写真家を、日本に紹介してきたエージェントです。

・写真のデジタル化が進み、モノクロファインプリントのスキルを持つ人は貴重になってきている。
オーディオの世界でアナログが見直されているように、銀塩写真への回帰がきっと来る。
ゾーンシステム研究会の会員にとってはこれからがチャンスではないか？

・このプリントのクォリティーなら充分やれる。
一度テーマを絞ってやるのもいい、静物写真とか風景写真など。

・会の中に広報担当を置いて積極的に各方面にプロモーションすべきだ。
写真雑誌はだめだから、写真雑誌以外の雑誌に持ち込むのがいいと思う。
それも何回も繰り返し持ち込むこと、向こうだって情報に飢えている。

・皆が集まる場所に私が出向いて話しをしてもいいし、力になってもいいよ。

・小さなスペースでよいから会員作品の常設展示場所を確保してはどうか。
会員でお金を出し合えば実現可能だろう。

・(アートプランニングルーム青山の会場を見て)
照明に問題があるな・・・、もう少し暗くてもいいんじゃないかな。
写真ギャラリーよりこういう現代アートのギャラリーがいいね。

・(東京写真文化館で写真展を開催した) ジャン＝バプティスト・ユンは３６歳の若さだが、著名な写真家たちのところへ押しかけて肖像を撮った。
一度では OK してもらえない作家でも、自分の表現目的などを熱心に説いて目的を達成している。
日本の同年代の（あまり実績のない）写真家には、これほどの目的意識とバイタリティのある人はいない。大切なのは自分を表現する熱意だ。

・君たちのゾーンシステムを勉強したプリントはすばらしい。
しかしウエストンはゾーンシステムを知らなかったがあんなに評価されている。それは内容がいいからだ。
ゾーンシステムは手段であり、ある程度習得できたなら、もつと作品の内容に力を注がなくてはいけない。

・フランスのプリンター「フィリップ・サルーン氏」が近々来日するので講演を頼んでもよい、但し講演料は必要。

2002/11　アートプランニングルーム青山
ゾーンシステム研究会　写真展にて

ゾーンシステム研究会定例会日誌

2003年1月11日(土)　　畑文夫

フォーラムよこはま交流ラウンジ
（横浜ランドマークタワー13 階）

出席者

宮岡、古川、田中（肇）、山本、岡崎、宇野、松本、田中（英）、北野、橘田、畑、市川、古谷津、佐伯、榊、山下、鈴木、石井、菅野、中島が出席しました。ゲスト、土居慶司。

・榊氏の感度出しネガはカブリ濃度が高く、その原因は自作Ｄ－７６にあるように感じる。
・プリント持参は田中英司、田中肇、橘田功、中島。そして、ゲスト出演の土居慶司氏でした。

・ゲスト土居慶司氏のパイロ現像紹介

今回は、土居慶司氏をお招きしてバイテン密着の作品を鑑賞し、またパイロ現像などについてお話を伺った。

土居氏は 90 年代、シリコンバレーに駐在していたおりに最晩年のモーリー・ベアー（注）からパイロ現像について伝授され、以降サンフランシスコを中心に作家活動を続けておられる。ジョン・セクストン（注）とも親交がある。

今回拝見したポートフォリオは神奈川の自宅周辺、サンフランシスコなどで撮られたもので、きわめて光の乏しい条件で長時間露光、長時間現像を行うことが多いという。　ときにはソラリゼーションを思わせる独特なトーンとシャープな描写を堪能した。

以下、パイロ現像などに関するお話の要点：
パイロ現像の魅力など

・パイロ現像を行うと還元銀にステインが付着し、濃度を高める。そのためハイライトの分離が良い（リニア濃度域が広い）。
・ステインのエッジ効果があり、シャープな印象。
・現像時間の依存性が少ない。
・プラチナプリントとの相性も良い。
・ステインの濃度は通常の濃度計では測定できず、カラー用濃度計で青色透過率にのみ現れる。したがって、通常の濃度計で測定すると特性曲線に大きな変化はない。
・ネガ濃度が高く引伸しにはあまり適さない（ウエストンのネガは濃度が高いことで知られるが、自分のネガはそれ以上だ）。

使用する機材など
・パイロは Photographers' Formulary, Inc から PMK パイロを購入可能。（注）
・フィルムはイルフォード FP4＋、印画紙は同マルチグレードウォームトーン（アミドール現像）に落ち着いている。
・アゾ紙も使っていたが入手困難。
・銀にステインが付着するため、使用するフィルムは銀の含有量が多いものが良い。
（イルフォード FP4+ 、HP5　コダック Tri-X など。　ただし国内ではイルフォードの 8×10 は入手困難）

・パイロ現像は粒状性が悪化するので、最低でもブローニー以上。
・フィルム定着は市販薬品（イルフォード　ハイパムフィクサー）を使用。
・密着光源はコールドライトに多階調フィルターを使用。　主に使うのは１号以下（００号まで）。
・カメラは Wisner 8×10、レンズは 300ｍｍが中心。

パイロ現像の注意
・パイロは毒性が強く、取り扱いには特別の注意が必要。
・皮膚に直接触れないよう、ゴム手袋を着用して皿現像。換気も良くする。
・市販の精製水に溶解する。
・廃液は水で希釈し、下水に流す。

参考書
・Gordon Hutchings 著　The Book of Pyro
・Photographers' Formulary　$26.95
　東京都写真美術館ショップに在庫の可能性あり。

その他
・自分が米国で作家活動をするのは、写真のマーケットが確立しているから。サンフランシスコのファインアート系フォトギャラリーで扱うのは九割が白黒である。
・日本の写真作品はあまり紹介されていないので、「波長が合えば」現地でも十分に受け入れられるのではないか。
・１０月第２週にサンフランシスコでゴーストタウン撮影のワークショップを予定している。

（注）
・モーリー・ベアー　Morley Baer 1916-1995
・ジョン・セクストン　John Sexton
www.johnsexton.com
セクストンはパイロを使用せず、専ら T-MAX などコダックの機材を使用。１枚のネガから３日もかけるなど、プリントに極めて力を入れているという。
・Photographers' Formulary, Inc
http://www.photoformulary.com/

（参考）
パイロ、アミドール処方など（日本語ページ）
www.kk.iij4u.or.jp/~lab/Formulas/Weston.htm
www.kk.iij4u.or.jp/~lab/Formulas/IlfordFormulas.htm

2003 年ゾーンシステム研究会
総会議事録

畑文夫

（敬称略）

・日時　２００３年2月2日（日）　１～３時

・場所　横浜ランドマークタワー１３階　フォーラムよこはまセミナールーム１

１．中島代表挨拶

・マイケル・ケンナのセミナー紹介（２月１日東京写真文化館）

好ましくないものを消すため、最長８時間程度の長時間露光を行うことがある／作品に近づいて見てほしいので、必要以上に大伸ばしはしない／人工物と自然との組み合わせが気に入っている／過去の作家が撮った位置で撮影してみる、同じ写真は二度と出来ない　・・・など示唆にとんだ内容であった。

・昨年の作品展について

一般の観客は減ったが、作家の来場は増えている。それだけ写真界に認知されてきたようだ。

・昨年のフォトキナでは九割がデジタルの展示だったが、一部に白黒に注力した展示もあったという。すべての情報はデジタル化され、情報としての写真もデジタル化される。しかし、写真の本質は情報だけだろうか？（平カズオ氏の文章より）

２．総会の成立（菅野幹事長、畑）

出席２４人、白紙又は他の会員に委任１２人、計３６人。会員数４８人。

出席数と委任数が会員の過半数を超えたため、総会は成立。

３．総会議長の選出

古川を選出

４．昨年度の活動報告（菅野幹事長）

５．昨年度の収支報告（松本）

６．昨年度の会計監査報告（赤羽・議長代読）

７．今年度の活動計画説明（中島代表）

・作品展への出品は「各自プリントを５枚作成し、内１点は研究会で収集する」ことを再度徹底したい。

８．今年度収支予算案の説明（畑）

９．役員及び会則の改定について（畑）

・内田休会にともなう事務局交替。

内田→畑

・赤羽出席困難なため、会計監査役増員。

赤羽→赤羽、古川

・幹事１名欠員のため、田中（英）を新任。

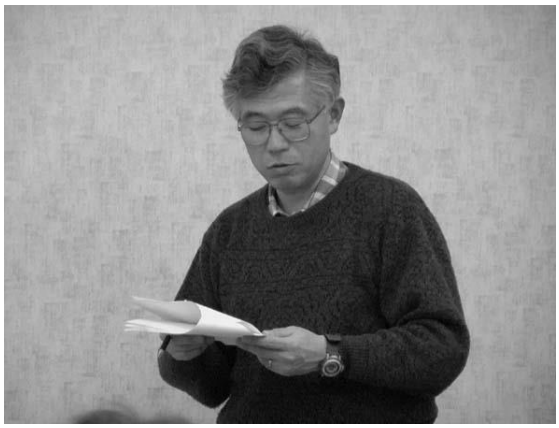
・会則第２条改正（事務局住所氏名）

以上は承認された。

・会則第５条改正（休会と退会の規定を追加）

提案を下記のように修正の上承認された。

・・・二年間以上会費の納入がなく、また、書面



による問い合わせにも回答のない場合は退会したものとみなし、名簿から削除することがある。（修正前）

・・・二年間以上会費の納入がなく、且つ、書面による問い合わせにも回答のない場合は退会したものとみなし、名簿から削除する。（修正後）

１０．その他、意見など

・撮影会など、参加者がもっと増えるような魅力的な企画がほしい。

・例会の会場、日程（原則第二土曜）について、希望や意見があれば出してほしい。
（ただし会場費は無料であること）

・会費の納入期限などを明確にしてほしい。
→３月末と明記する

[追記]

当日行われました、原直久先生の講演に関する記事につきましては、次回の会報に載せたいと思っています。（担当：編集部荒井）

Information

【トピックス】

中島秀雄、松尾忠雄二人展

現在、鎌倉で中島先生参加の写真展が開催されています。（リバー、ボーディ、ボタニカのシリーズ）また、中島先生のレクチャーも合わせて開催されますので、ぜひお越しください。

・場所:早見芸術学院 2F ギャラリー
（鎌倉駅八幡宮出口をロータリーにそって右に回り込み、繁華街に入る通りに入ります。右に真っ直ぐ進み、２０m位行った右の建物です。（駅から１～２分。）
・住所：鎌倉市小町１－２－１６
・ＴＥＬ：０４６７－２２－３３４０
・ＨＰ：http//www.hayami.ac.jp
・写真展日程：2003/3/15-3/29 10:00-18:00
日曜、祭日は休み
・講演会日程：2003/3/15（土）15:00-18:00
「ｱﾝｾﾙｱﾀﾞﾑｽとｿﾞｰﾝｼｽﾃﾑ」中島秀雄
講演会は要予約です。早見芸術学院へお問い合わせください。
・早見芸術学院では、中島先生以外に松尾忠雄さんの講演会が 3/22,3/29 に行われます。
（いずれもモノクロプリントに関する講演で、要予約です。）こちらも早見芸術学院へお問い合わせください。

【売ります】

中島秀雄

・ヴューイング・フィルター　6x6、5x4、
各＄50
・サンプルプリント　（Ｒｉｖｅｒ、Ｐｏｒｔｒａｉｔ）
各3000円

植村栄一

以下の価格は、「お気持ちの値段でお願いできればと思っています。」とのことです。本人にお問い合わせください。

・トヨビュー5×7
後ろ枠、蛇腹、グラス付き、新品
１０年前の品ですが買ったままになっています。蛇腹の具合がさだかではありません。

・ジナー4×5
双眼レフレックスマグニファイヤー拡大レンズ付き
（遮光フードは付いていません。）

・ミノルタスポットメーターM
ケース付き

Information

【原稿募集】

会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

［以下原稿投稿に関するお願い項目です。すみませんがよろしくお願いします。］

1．写真原稿は、紛失事故防止のためできるだけネガやポジは避け、プリントでお願いします。
2．手書き文章はスキャナーでパソコンへ入力できないので、原則として受け付けません。以下いずれかの方法にて投稿願います。
・ワープロやパソコンでプリントアウトしたもの、（スキャナーでパソコンへ入力します。）
・パソコンの電子メール
・ウィンドウズの Word2000
・text ファイル
（ちなみにこの会報は、ウィンドウズの Word2000 で作成しています。）
ただし、どうしても手書き文章しか投稿できない事情がある場合は、事前に連絡をいただくようお願いします。
3．イラストは手書きでも結構です。スキャナーで取り込みます。

パソコンの扱いが不慣れのため、時々ご迷惑をおかけするときがあるかと思いますので、その際はよろしく御指導ください。

［編集部］　荒井　崇